

# 漁師になりたい。 その情熱に、みんなで応えたい。



## 三重外湾漁業協同組合（三重県）

### つぎの漁師を育てることで、漁村を育てていく。

漁師の高齢化。そして、後継者の不足。全国の漁村が抱える大きな問題に、情熱をもって立ち向かっているのが「三重外湾漁業協同組合」です。

#### 漁師を育てる、情熱と覚悟。

「昔はこの町に生まれたら、漁師になるのが当たり前だった。でも、いまはそうじゃない」と語るのは、組合の理事をつとめる城山さん。何も手を打たなければ、やがてこの町やこの町の漁師文化はなくなってしまふ。そんな強い危機感を胸に、2010年、ひとつのプロジェクトを立ち上げました。それが、漁師を目指す若者を全国から集め、一人前の漁師になるまでサポートする「畔志賀(あしか)漁師塾」です。「手とり足とり教える必要はない。みんな大人ですから。大事なのは、生活を守ってあげること。我々には塾生をここへ連れてきた責任がありますから」その言葉通り、塾生の生活を地域をあげて徹底的にサポート。空き家を住居として提供したり、地域の人々と交流する場を積極的に設け、町に溶けこむ環境を

つくり出しています。さらに、漁師として独立する際、中古の船や漁具を探したり、船に係留する場所を用意するなど、この町で漁師として生きていくための惜しみない支援を行っているそうです。最初は、県外から漁師を募ることに反対の声がなかったわけではないそうですが、この町の10年後、その先を



三重外湾漁業協同組合 城山理事

考え、塾の必要性を説明して回ったそうです。「漁師という仕事はこれからも変わらない。でも、漁師の決めごとや文化は、時代によって柔軟に変えていけばいい。この町を支えていく塾生たちが、自ら考えて決めればいいんです」見知らぬ土地で、

漁師として新しい人生を始める。その覚悟を、地域みんなで受けとめ、応えていくこと。漁師の後継者を育てるためには、そんな受け入れ側の覚悟が、何より大切なかもしれません。

#### 大事なことは、世代を超えること。

県外から来る漁師希望者にとって、特に気になるのが「安定した収入」。そこで、収入の安定を目指し、漁ができない冬場を中心に、地域の海産物を使った食品加工販売を行う「志島おさかなくらぶ」を立ち上げました。すでにみらい基金の助成を活用し、食品加工場の建設も始まっています。「もちろん、簡単なことではありません。志島に伝わる郷土料理をベースに、全国の人たちの口にあう商品を試行錯誤しながら開発していきたい」と語る城山さんは、世代を超えた取り組みが何より欠かせないといいます。「いまの60代は本当に若い。この町の高齢者と、県外から来た若い漁師たちが、いかにチカラをあわせられるか。それが課題であり挑戦でもあります」ここにも、地域漁業を活性化させるヒントが眠っているそうです。

#### 人の想いが、みらいを動かしていく。

「じつは、塾生の1人が結婚して子どもが生まれたんです」この町に1人でやってきて、やがて2人になり、さらに家族がふえる。そうやってこの地に根を張り、漁師としてこの町の人になっていく。それが何より嬉しいし、すごいことだと語る城山さん。ひとりひとりの人生と向き合うことが、漁師の後継者育成に何より大事であること。そして、結局最後は、人の想いが、みらいを動かすこと。地域の漁業を考えていくうえで大切なことが、この町にはありました。



## 三重外湾漁業協同組合 + 農林水産業みらい基金

強い情熱が、新しい漁師を育て、漁村のみらいを育てていく。このプロジェクトには、全国の漁村が共通して抱える課題に対する、ひとつの答えがある。そう考え、応援の気持ちをこめて、今回の助成が決まりました。私たち農林水産業みらい基金は、JA(農業協同組合)・JF(漁業協同組合)・J Forest(森林組合)グループの一員である農林中央金庫によって設立されました。



一般社団法人  
農林水産業みらい基金

詳しくは [www.miraikin.org/](http://www.miraikin.org/)